共通技術基盤サブワーキンググループ（SWG）第1回会合 議事録

日 時：2026年2月16日（月）10:00～12:00
場 所：大阪大学 吹田キャンパスA1棟1階113号室 および Zoomオンライン会議
会合参加者（35名参加、敬称略、順不同）：

大石（阪大）、笠田、小無（東北大）、山路（早稲田）、園田、太田、樽見（電中研）、大堀（四電）、阿部（東大）、左右田、的場（関電）、佐藤（MHI）、佐藤（都市大）、吉武、中ノ園、小柳（九電）、安元、小川（原電）、佐川（東北電力）、大野（東北大）、土屋、鶴田（東電HD）、岡田（エネルギー安全技術研究所）、久保（規制庁）、槙井（神戸製鋼）、渡嘉敷（日立）、浅沼（東海大）、山下、加治、大久保、田崎、三島、三輪、相馬、端（JAEA）

資料配布のみ（20名、敬称略、順不同）：

岡、橋本（北海道大）、近藤（東北大）、浦野（中部電力）、島本（四電）、茶木、鈴木（IAE）、安部田（WH）、岡田（MHI）、高橋、藤田（東北電力）、菅原（東電HD）、岸本（室蘭工大）、守屋、山本（中国電力）、有馬、橋爪（九大）、宇田川、勝山、大塚（JAEA）

議事摘要：

- 共通技術基盤SWG（以下、「本SWG」）は対象範囲が広範にわたるため、本SWG参加者の興味・関心および懸念事項を把握するために、まずはブレインストーミング（以下、「ブレスト」）を実施した。本会合は、リード役である阪大・大石先生のもと、大阪大学を会場として実施された。
- 本会合の冒頭では、前回会合のブレスト結果とその分析方法案および今後の進め方について事務局から説明が行われた。
- 次に、ブレストの一環として事務局から2件のプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションでは、バックエンド(JAEA・三島氏)および解析コード(JAEA・田崎氏)についての話題提供が行われた。
- 総合討議では、ATF実用化に伴う追加コストを上回るような社会的・経済的ベネフィットの明確化の重要性が共有された。材料試験炉（JMTR後継炉や既存炉の活用）や、原子力学会の他部会との連携といった横断的課題へのアプローチについても意見交換が行われた。
- 最後に、事務局からは今後も対面を重視した継続的な議論の場を設け、参加者の知見を活かしながら共通技術基盤の整理とATF実用化へつなげていく方針が示された。

【配付資料】
資料1-1： 第1回会合 議事次第
資料1-2： 前回会合のおさらいとブレスト時コメント等の分析に基づく本会合の今後の進め方（案）
資料1-3： 燃料開発におけるバックエンドの視点 ー新型燃料の実用化に向けてー
資料1-4： 共通技術基盤としてのFEMAXI-8.1の信頼性向上と成果創出に向けた展望
参考資料1-a： 運営要綱及び秘密保持誓約
参考資料1-b： 第0次回会合 議事録案（公開用）
参考資料1-c： 参加者リスト

以上